



研究部会報告

● COM・APS (先進的スケジューリング) ●

・第6回

日時：平成13年10月19日(金) 18:00~20:00

出席者：17名

場所：青山学院大学青山キャンパス総研ビル3階10会議室

テーマ：「ロバストスケジューリングとプランニング」

講師：宮下和雄 (産業技術総合研究所)

本講演では、機械の故障や作業時間の変動など環境の変化に対する「頑健なスケジュール」の必要性を指摘した上で、「頑健なスケジューリング」に対する研究の分類を行った。また、プランニングに基づいてスケジューリングを行う古典的なやり方に対して、プランニングとスケジューリングの統合やその研究の必要性を説いた。

● ORにおける数理システムの最適化 ●

・第8回

日時：10月20日(土)

出席者：10名

場所：金沢大学経済学部5階会議室

テーマと講師：

(1)「A Framework for Search Heuristics」

Ross James (Department of Management, University of Canterbury, New Zealand), Yuji Nakagawa (Faculty of Informatics, Kansai University)

Search heuristics, such as Tabu Search and Simulated Annealing, start from a single solution and incrementally change it in order to find better solutions. This research develops a framework for search heuristics which: —Identifies the key relationships between different search heuristic elements—Explores how these elements could affect search heuristic performance—Classifies different search heuristics and their many variants—Provides a checklist of things to consider when formulating a search heuristic.

(2)「汚職の経済分析—エージェンシー理論の観点から—」

前田 隆 (金沢大学経済学部)

2人のエージェンツ (代理人) と一人のプリンシパル (依頼人) からなる組織における汚職の問題を取り扱った。本報告では、エージェンツ間の結託として汚職の問題を取り上げ、戦略的行動として Framing の問題を取り上げ、その規制方法を考察した。

● 評価の OR ●

・第10回

日時：10月20日(土) 13:30~16:00

出席者：15名

場所：政策研究大学院大学

テーマと講師：

(1)「AHP 国際会議 ISAHP 2001 報告」

篠原正明 (日本大学)

(2)「非線形モデルに対するカルマンフィルタ適応の検討」

中村 剛 (成蹊大学大学院)

ロジスティックモデルならびに Bass モデルの非線形モデルにカルマンフィルタを適用した。

(3)「予測値による企業評価」

星野健一 (成蹊大学大学院)

カルマンフィルタを使った予測値データに対して DEA/確率的 DEA を適用し、企業評価を行い、Z 値の予測値と比較した。

(4)「カルマンフィルタを用いた長期予測とそれに基づいた在庫管理の研究」

高鳴成行 (成蹊大学大学院)

データ間の比率を予測する状態空間モデルを構成し、ピザ店舗の食材需要予測に適用した。

(5)「A Slacks-based Measure of Super Efficiency in DEA」

刀根 薫 (政策研究大学院大学)

スラックを考慮した超効率性 (Super-Efficiency) の尺度を提案した。これは、スラックを考慮した通常の効率性尺度 (SBM) を超効率性版に拡張したものである。例題により、提案する SBM 超効率性尺度を既存の CCR モデル超効率性尺度と比較し、SBM 超効率性尺度の有効性を示した。